





ヨシであそぼう!

ヨシ(いね科)は、水辺やしめった草地ならどこでも見られます。世界でいちばん分布の広い植物です。アシとも呼ばれ、高さは約2メートルくらいになります。

親子舟をつくる

- ヨシの葉を切り取り、さやは切り落とします。
- 「ほかけ舟」②～⑤と同じ手順でつくります。
- のこった葉を4センチほどの途中で折りかえます。
- さらに、2センチほどもどったところで、もう一度折りかえます。
- おりかえたところに切れ目を1つ入れ、さいた片がわをもう一方にさしこみます。
- 最後にのこった葉先を、まだおりかえます。
- おりかえたところに切れ目を入れ、同じように、片方にさしこみます。これで完成!

ほかけ舟をつくる

- ヨシからさやを少しつけて葉を取ります。
- つねがわの葉を内がわにあり、2センチくらいの2つの切れ目を入れます。
- 両はじの片方を、もう一方にさしこみます。
- 葉先がわも同じように内がわにあります。
- 同じように2センチくらいの2つの切れ目を入れ、両はじの片方をもう一方にさしこみます。
- さやのところで、のこった葉先を折りかえます。
- のこった葉先のまん中を2つにさいて、さやをさしこんで、葉をまっすぐに立てたら完成! 葉先が長すぎたら、途中で切り取りましょう。

ほかにも...

関川の川原には、ゼンマイ、フラビ、クサシテツ、ウド、タラノキ、セリ、フキ、ノビル、スギナ、アケビ、クヌ、ノアザミなど季節によってさまざまな山菜や野草が生えています。

モクズガニをとってみよう!

モクズガニは稚ガニになって川を遡って河川生活をします。交尾後、腹部に産卵して、卵は河川に流れてしまいます。海の沿岸域でふ化してプランクトン生活後、稚ガニとなって川にもどるのです。オスは大きく成長するとはさみ脚に扇状の毛をもつことから、モガニと呼ばれています。

モクズガニを釣ろう!

用意するもの

- 2メートルくらいの竹竿、丈夫なひも、たも、魚のあら、古布、針金

- 竹竿の一端にひもをがんじょうに結びます。
- 古布で石を包んだら、針金でひもの先端にしっかりと結び、オモリにします。
- 同じ場所に針金で魚のあらをしっかりと固定してエサとします。
- 川の少し深いところを探してエサを沈めます。
- 10分ごとに静かに竿を引上げます。エサにかニがついていたら、タモを水中に置いてカニの下側から一気にすくい上げます。

カニがごの仕組み

- カニがごの中に、エサとして魚のあらを取りつけましょう。
- カニがごが流されないように、中に石も入れておきましょう。
- カニがごにひもを結んだら、川の少し深いところに投げ込みます。
- 夕方に投入しておいて、翌朝になったらカニがごを引き上げてみましょう。

カニがごでつかまよう!

カニがご(釣具店に売っています)

丈夫なひも

カニがごの仕組み

カニがごに入ると、外に出ることができない仕組みになっています。

注)モクズガニには、肺臓シストマという吸虫が寄生していることがあり、これが肺に寄生することになる場合もあるので、よく火を通してから食べる必要があります。

モクズガニのうんちく集

●カニの種類は日本では431種類ですが(原色甲殻類検索図鑑)、その中で淡水に生活するカニは、モクズガニとサワガニの2種類だけです。

●川にすんでいるシナモクズガニは中華料理で上海ガニと呼ばれ、とても高級品です。

ほかにも...

関川の下流部は、川幅も広く、流れが緩やかです。謙信公大橋のあたりまで海水があがって、くさくさとした臭気、スズキやコシロ、メナダなどの汽水魚・海水魚がたぐさみつかっています。

川原のれきを集めよう!

※「れき」とは2ミリ以上の岩石のかけらや小石のことです。

川原にどんな石があるのか調べてみよう

なぜ、川原の石は丸いかな?

石を割ってみよう

石を集める

分けた石を数個ずつ持ち帰り、関川の石の種類として標本をつくってみよう。

川原のれきの将棋倒し配列

川原のれきをじっくりとながめると、れきが下流に向かって斜めに重なり合って並んでいるのが分かります。これを「将棋倒し配列」と名づけました。

将棋倒し配列は、河川の長さに関係しています。信濃川などの長い河川には、ほぼ同じ大きさのれきや平べったいれきが多いため、配列がはっきりと見られます。しかし、短く急な河川では、れきの大きさや形がバラバラで重なりあわず、あまり配列がみられません。

配列はどうしてできるのかな?

川原で特に配列がみられるところを選んで、一定範囲の将棋倒し配列をすべて削ってしまおう。大雨の増水後に水が引いたら、再び同じ場所に行って、れきの様子を観察してみましょう。増水による強い川の流れによって、新しい将棋倒し配列が完成していることが分かります。

ほかにも...

大雨などの増水後に水が引いた河川には、たくさんの流木が流れていきます。きれいな形やおもしろい形をした流木をいくつか探して持ち帰り、「流木アート」に挑戦してみましょう。

サギとカモをじっくり見てみよう!

春と秋の関川では、サギの仲間やカモの仲間が数多く見られます。とくにアオサギは近くには200羽以上のコロニーがあり、秋になるとチュウサギやアオサギが数百羽も集まります。川原へかけて、いろんなサギ達が川岸や中洲の周辺で魚をつかまえる様子をじっくりと観察してみましょう。

サギ類の仲間

カモ類の仲間

アオサギ、ダイサギ、チュウサギ、コサギ、アマサギ、ゴイサギ、ササゴイ、ヨシゴイ、マガモ、カルガモ、コガモ、オオヨシガモ、ヒドリガモ、オナガガモ、ハシビロガモ、ホシハジロ

関川の川原には、水辺の低い草地が多く、水ぎわにはヨシが生えているので、ヒバリやオオヨシキリなどの鳥が多く見られます。草地の中では外敵から身を守ることができ、巣を作ってヒナを育てる場所としても適しているからです。

バードウォッチングに挑戦しよう!

双眼鏡、フィールド手帳(外に持っていく手帳)、スケッチブック、色鉛筆などの筆記用具

バードウォッチングに出かけて野鳥に出会ったら、その場でスケッチしておきましょう。ただし野鳥はとておとなしく生息する動物です。歩く時に音をたてたり、おやみに近づいたりして鳥を驚かせないように注意しましょう。

写真提供: I N P O法人 関川水辺クラブアドバイザー 山本 明さん